

手をつなく親と子



令和7年10月発行 登別市教育委員会・学校教育グループ「子育てコラム」 No. 50

～子どもの“行きたくない”は心のサイン～

子どもが「学校に行きたくない・・・」と言っている。そんな時、保護者の皆様はどう接していますか？「ちゃんと行きなさい！」と強く言うてしまうことがあるかもしれません。

しかし、「行きたくない」という言葉の裏には、子どもの心の疲れや不安、SOSのサインが隠れていることがあります。そんな時、どのように受け止め、どのように対応していったらよいのでしょうか？



◎子どもの「SOS」サインの気づき

小・中学校における**不登校の児童生徒**は、直近の文部科学省の調査によると、**約35万人で過去最多**となっています。

子どもが学校に行くことができない理由は、**人間関係のトラブル、勉強の難しさ、家庭での変化**など理由は一つではなく、**背景は様々**です。

これらの問題や状況への対応で重視されているのは・・・

→**子どもの「SOS」サインの気づき**です。



子どもの「SOS」（たすけてのサイン）
の発信と周囲の受け止め



子ども一人一人が異なった性格や個性をもっているように「SOS」の発信の仕方もそれぞれ異なります。

うまく言葉で説明できないまま「行きたくない」と訴えることがあります。

「SOS」を発信できずに苦しんでいる子も・・・。

「最近ちょっと元気がないね」「何か嫌なことがあったのかな？」と、気づきと受け止めの言葉から始めることが大切です。

◎子どもの「SOS」サインを効果的に発信・受信するために

子どもの「SOS」は、言葉だけではなく、しぐさや表情にも表れますので、そのサインを受け止めやすい環境づくりが大切です。

ここでは、「発信（子どもが助けを求める力）」と「受信（大人がそれを受け取る力）」の両面から大切なポイントを見ていきましょう。

1 子どもが「助けて」と言える環境をつくる（発信を促す）

子どもが困ったときに「助けて」と言えるようにするには、安心して気持ちを話せる関係づくりが大切です。

毎日少しの時間でも「今日どうだった？」と声をかけ、話を聞くことで、子どもは「話しても大丈夫」と感じ、SOSを出しやすくなります。

2 話を聴く姿勢を大切に（受信を高める）

子どもは言葉で「助けて」と言えないこともあります。

だからこそ、小さなサインに気づくことが大切です。

話したくなるまで待ち、「つらかったね」と受け止める言葉をかけてあげましょう。

3 悩まずに相談する（SOSを受け取った後の対応）

子どものSOSを受け止めたら、一人で抱え込まず、先生や専門機関に相談しましょう。



ここでご紹介した内容はあくまで一例です。子どもによって感じ方や表現の仕方は様々で、子どもの成長とともに変化してきますので、「これが正解」という形はありません。大切なのは、子どものペースや個性を尊重しながら、安心して話せる関係を少しずつ育てていくことです。

子どもが「助けて」と言っても大丈夫な環境を大人が先につくること。その安心感こそが、子どもの心を守る一番の鍵になりますので、できることから取り組んでみてはいかがでしょうか？

また、登別市教育委員会では、いじめ相談電話や「鬼っ子広場」、スクールソーシャルワーカーによる児童生徒や保護者との面談やアドバイス等の取組を行っています。いつでもお気軽にご相談ください。

誰でも相談できます！

～身近に相談できる人がいます～

○子ども相談支援センター・・・・・・・・・・ 0120-3882-56（24時間対応）

○24時間子供SOSダイヤル・・・・・・・・・・ 0120-0-78310（24時間対応）

○登別市いじめ相談（教育相談）電話・・ 85-0085（月～金 9時～17時）

○登別市教育指導室「メール相談」・・・ tsunagu@city.noboribetsu.lg.jp